

<第3回 義肢装具体験イベント開催報告>

『義肢装具体験イベント』とは、当協会「障がい者、パラアスリート及び義肢装具士の啓蒙に関するWG」が取り組む、公益目的事業の活動の一つです。

この公益目的事業は、障がい者、パラアスリート及び彼らを支援する義肢装具士等専門職について、社会的な理解を高めるために啓蒙活動を行う事を目的としています。

WGの主な活動内容は、①2020年オリ・パラを契機とした地域活性化プランへの協力、②小学生・中学生・高校生に対して、「障がい」・「障がい者」への理解を通じてボランティアマインドの育成や社会教育への貢献、③東京都教育委員会が主管する「オリ・パラ教育推進支援プログラム」への参加等による貢献、④これらの啓蒙活動の全国展開へ向けた、当協会他支部への提案、としています。

第3回となる「義肢装具体験イベント」を、平成29年11月11日（土）に東京都中野区立 南中野中学校にて開催いたしました。

当日は「義肢・装具の装着体験」・「義足ユーザーとの交流」・「障がいのある方々と義肢装具士の関わり（講義）」の3つのプログラムを、中学校1年生～3年生の生徒とその保護者、教職員を対象に実施いたしました。

各学年約100名、総勢約300名の生徒に、(公社)日本義肢装具士協会 東日本支部から総勢25名がスタッフとして対応しました。それぞれのイベントについて解説いたします。

「義肢・装具の装着体験」

体験用装具や模擬義足等を装着し、「障がい者・高齢者の動作」や「切断者の義足歩行」を体験してもらう事で、「障がい者・高齢者」の身体的負担を体感することで、その理解とボランティアマインドの育成を目的としました。

高齢者・片麻痺者の疑似体験用装具を装着して畳から立ち上がったたり、模擬義足を装着して生徒同士で支えあって歩いたり、多くの生徒達は初めての体験に驚きと身体的負担の大変さを感じていました。



<模擬義足での歩行体験>



<高齢者の動作体験>

「義足ユーザーとの交流」

下腿義足、大腿義足のユーザーそれぞれ1名の方々に参加協力して頂きました。ユーザーと交流することにより、実際に会う事や言葉を交わす事で「障がい者」理解を深めてもらう事を目的としました。ユーザーとの質疑応答では、生徒からは日常生活に関する疑問点や、義足で不自由な事について等の質

問が挙がりました。その後、体育館の一角で野球やバドミントンのパフォーマンスを生徒と一緒にやり、交流を深めました。生徒はユーザーのパフォーマンスを目の当たりにして、想像を超える活動度に認識を一変したようで、義足が見えなければ切断者と分からないと感想を述べていました。



<義足ユーザーとの質疑応答場面>



<生徒とバドミントンのラリー>

「障がいのある方々と義肢装具士の関わり（講義）」

「障がい者・パラアスリート」と、その方々を支援する義肢装具士の職業について、理解を深めてもらう事を目的に講義をしました。また、講義に続いて代表の生徒をモデルに短下肢装具の採型デモンストレーションを実施しました。ほとんどの生徒が初めて見る採型作業に興味津々に見入っていました。質疑応答では義肢装具や義肢装具士に関する沢山の質問があり、活発な意見交換が行われました。



<講義後の質疑応答場面>



<生徒への採型デモンストレーション>

この「義肢装具体験イベント」開催後に、生徒に実施したアンケート結果では、全体の約95%が体験イベントへの参加に満足しているとの回答を得ました。また、プログラムの中では実際に体感出来る事からか、「義肢・装具の装着体験」に最も興味を持っていただいたようです。パラリンピックへのボランティアスタッフの参加に関しては、全体では約50%が参加したいとの回答でしたが、3年生になるとより現実的に受け止められるのか、約65%が参加意思を示していました。

今回で「義肢装具体験イベント」の開催は3回目となりましたが、多感な年代に「障がい者・パラアスリート」、その方々を支援する義肢装具士の業務を伝える事は、「障がい者理解」や「ボランティアマインドの育成」、「義肢装具士の理解と職業選択」に通じる非常に大切な啓蒙活動であると考えます。

このWGでは、これからも積極的に啓蒙事業に取り組んで参ります。